

子どもたちの主体的な活動をつくり、確かな力を培う学習の展開

～豊かなかかわりと学びを大切にしたい体育学習～

I 研究主題について

研究主題における『子どもたちの主体的な活動』とは、学習指導要領で重視される「生涯にわたって運動に親しむための資質や能力の基礎の育成」をめざす小学校体育において、運動の楽しさや喜び、健康的な生活の経験が、次なる運動及び心身の健康への学びの欲求となった姿であると考えられる。そのためには、体育の学習において、児童が各運動の特性を知り、友達と協力しながら練習方法を工夫し、技能を身につけ、運動固有の楽しさを感じられる体育学習を展開していかなければならない。

『確かな力を培う』とは、小学校1年生から4年生の「各種の運動の基礎を培う時期」、5年生から中学校2年生にかけての「多くの領域の学習を経験する時期」を通じて、運動の系統化のもと、指導内容を明確にして、例示の習得を通じ、多様な運動経験、学びの経験、体力の向上が図られた姿および、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し改善していく資質や能力の育成としてとらえる。

八頭郡では、従来から、運動とのかかわりとして、技の特性に目を向けた、動きや基礎感覚の系統性のもとにした系統表の作成。仲間とのかかわり合いとして、言語活動を通じた教え合い、学び合いを重視した取り組みを研究している。本年度本研究テーマのもと、鳥取県小学校体育研究大会を開催し、研究の成果発表を行った。

II 研究の視点

（運動領域における視点）

- （1）身に付けさせたい力の系統性を意識した単元の流れの工夫
- （2）学習内容を明確化した学習展開の工夫
- （3）子ども同士の学び合いの充実

（保健領域における視点）

八頭郡では、「児童自ら健康や安全に対して疑問や好奇心をもつとともに、自分のこととしてとらえ、学習に対して主体的に取り組んでいく保健学習」を目指して、八頭郡の研究における3つの視点を保健領域においては次のように考えている。

- （1）身につけさせたい力のもとにした指導内容の系統性を重視
- （2）学習内容を明確化した学習展開の工夫
- （3）子ども同士の学び合いの充実

III まとめ

鳥取県小学校体育研究大会には、会場の八頭町立隼小学校に県内から多くの体育関係者の参加いただき開催することができた。当日は、隼小学校の先生による体育学習の公開を通じて子どもたちの勢いのある姿をご覧いただいたり、八頭郡の体育・特別活動研究部の研究の積み重ねに基づいた実践発表を紹介したりすることができた。八頭郡は来年度多くの学校が統合し、学校数が10校から6校に大幅に減少する。しかし、今年度の体育研究及び体育実践が、学校数は減少しても、今後の八頭郡の体育研究の大きな道しるべとして、勢いのある体育学習の礎となるものと考えられる。